



Q 30年前、友人の助言で先祖のトートーメーを墓に納めましたが、別の友人から「それが家庭不和の原因だ」と言われ、仏壇に戻すことにしました。しかし、トートーメーは白アリに食べられ、ボロボロで見ても無残な状態です。戻すことを勧めた友人は、捨てて新しいのを買えばいいと言っていますが、ボロボロなトートーメーは、もう使えないのでしょうか？
(石垣市・Tさん・80代女性)

A トートーメーのことを漢字で尊御前と書きます。読んで字のごとく、尊い御仏前という意味があります。ここから、トートーメーはとても大切な位牌であることがうかがいしれます。

Tさんもよほどのことがあつて墓の中にトートーメーをご案内(ウンチケー)されたのでしよう。そのことについては何も申し上げません。過去は顧みず、まずはどのような方法があるのかを一緒に考えていきましょう。沖縄ではトートーメーの継承者が不在などの時、いくつかの是正方法がありますので、代表的な数例をご紹介します。

預かり元祖(ラジクワイグワンス)しかるべき血筋の方の仏壇を借りて預かっていただく方法。当家のトートーメーの下

座になるよう配慮する。
昇天供養

終わり焼香(ウワイスーコー)という三十三回忌を終え、かつ継承者が定まらないトートーメーを焚き上げて供養する。

一時供養・永代供養

寺などへ納め預ける。預ける期間によって一時供養、永代供養と呼び名が変わる。

墓納牌(はかのうはい)

納骨している墓へ、そのトートーメーも納牌する方法。一般的に骨壺(カミー)よりトートーメーが上段の上座になるよう配慮する。

過去帳

位牌であるトートーメーから、故人の法名(戒名)・俗名・命日・行年(享年)を記載した折り本に交換する方法。

そのほか、地域・家庭により多くの是正方法があるときありますが、Tさんの場合、墓納牌を選択したことになりました。預かり元祖や一時供養・永代供養ではトートーメーがなくなることはないので、現状のまま供養することが可能です。逆に、昇天供養、墓納牌、過去帳などは、トートーメー自体がなくなる、または供養できなくなる可能性があります。30年前のTさん家では、そのことを前提として墓にトートーメーをウンチケーされていたのかもしれない。当然、白アリの被害に

遭うことも想定できたことでしよう。結果、今回の質問に至っています。

さて、回答です。トートーメーは、復活できます。というより、新たにお迎えできるという表現の方が適切でしょう。だからといって、今までのトートーメーを捨てることは差し控えた方がよいかと思えます。しかし、そのままお仏壇にウンチケーするわけにもいかなないでしょうから、このような場合は、抜き霊(ヌジフア)ウンチケーの応用として判断してはいかがでしょうか。

具体的には、四十九日という事例があります。お葬式から四十九日までは、白木位牌(シルイフェー)を供養しますが、当日、トートーメーの札に故人を記載して位牌を差し替える儀礼を目にしたことがあると思います。これは、位牌の交換と切り替えの作法です。シルイフェー全体を焚き上げ、または一部を削り焚き上げ、お仏壇の香炉の中に灰を3回に分けて入れるという作法です。今回の事例でも、同じ作法が適応できるでしょう。

順序としては、次の通りです。
1. 閏月(ウンヂチ)や七夕など、お墓を開ける時期を判断します。
2. 墓の中のトートーメーを、墓外に案内します。

3. 墓の御庭(ウナー)で、トートーメー全体を焚き上げ、または一部を削り焚き上げます。

4. 事前に、故人を記載した新しいトートーメーを準備します。

5. 仏壇のウコールへ、焚き上げたトートーメーの灰を3回に分けて入れ、ウンチケーします。

6. 新しいトートーメーを安置して、平御香(ヒラウコー)15本(地域や家庭によって異なる)を焼香します。

墓の中のトートーメーは一見ボロボロになり埃まみれかもしれませんが、今、お互いがこうやって幸せに生活できるのも、大切な仏様やウヤファーフジ、ご先祖あつてのことではないでしょうか。今までのトートーメーの埃を、我が家の誇りとして、合掌、礼拝し、最後は真心をこめて、きれいに磨きささせていただきますませうね。

